

日本私立大学団体連合会・日本私立短期大学協会主催  
東日本大震災の被災地におけるシンポジウム 2012

〔協賛：原発被害福島県私立大学・短期大学連合会〕

日 時 平成24年8月8日(水) 午後1時～5時  
会 場 郡山女子大学・同短期大学部 建学記念講堂  
所在地：郡山市開成3-25-2

テ ー マ 東日本大震災を超えて：大学のなすべきこと、できること  
教育の復興なくして地域の復興と国の再生なし

〔プログラム〕予定

13:00～13:10(10) 主催者あいさつ

清家 篤(日本私立大学団体連合会会長、慶應義塾長)

13:10～13:25(15) 来賓あいさつ

板東久美子氏(文部科学省高等教育局長)

佐藤 雄平氏(福島県知事)

原 正夫氏(郡山市長)

13:25～14:25(60) 特別講演

「安心・安全な生活環境を求めて 子どもの未来を拓く」

児玉 龍彦氏(東京大学アイソトープ総合センター長)

14:25～14:40(15) 休 憩

14:40～16:35(115) シンポジウム

「東北被災大学のこの1年の取組みと地域貢献」

コーディネータ：関口 修氏(学校法人郡山開成学園理事長・郡山女子大学学長)

シンポジスト：原 正夫氏(郡山市長)

日高 義博氏(学校法人専修大学理事長・専修大学学長)

関口 武司氏(いわき明星大学学長)

遠藤 静子氏(桜の聖母短期大学学長)

16:35～16:55(20) フロアーとの意見交換

16:55～17:00(5) 閉会あいさつ

佐藤 弘毅(日本私立短期大学協会会長、目白大学短期大学部学長)

## シンポジウム「東北被災大学のこの1年の取組みと地域貢献」

### コーディネータ

- <sup>せきぐち</sup>関口 <sup>おさむ</sup>修 氏（学校法人郡山開成学園理事長・郡山女子大学学長）

### シンポジスト

- <sup>はら</sup>原 <sup>まさお</sup>正夫 氏（郡山市長）

郡山市は、大震災及び原子力災害から1日も早く市民の安全・安心な生活を取り戻すため、これまで様々な対策に全市一丸となって取り組んできた。シンポジウムにおいては、本市における復旧・復興のための施策のうちから放射能汚染に係る除染対策、健康管理対策、そして将来を担う子どもたちのための環境づくりについて、これまでの対応と今後の取組みを紹介する。

- <sup>ひだか</sup>日高 <sup>よしひろ</sup>義博 氏（学校法人専修大学理事長・専修大学長）

学校法人専修大学は、専修大学と石巻専修大学を設置している。大震災では、専修大学では校舎等に損傷が生じたが、石巻専修大学の校舎はほぼ無傷であった。法人としては、震災後、専修大学のキャンパス整備計画を速やかに策定し、石巻専修大学においては、被災者救援活動の拠点としてキャンパスを解放することを即決した。現在、地域社会の復興・再生に向けた持続的な支援活動を行っている。また、被災学生の支援のために学費減免特別措置を講じ、被災者支援スカラシップ入試制度を導入している。本学の建学の精神からして、地域社会の復興・再生に積極的に寄与すべきものと考えている。

- <sup>せきぐち</sup>関口 <sup>たけし</sup>武司 氏（いわき明星大学 学長）

震災からの復興 ～ 地域のために走った1年

大地震と津波、原発事故という連鎖によってもたらされた福島県の多重被災。地域に誘致されて設立された大学として、地域貢献の使命を果たすべくさまざまな事業に取り組んだ1年間を振り返り、大学が地域に対して成せる意義を考える。

- <sup>えんどう</sup>遠藤 <sup>しずこ</sup>静子 氏（桜の聖母短期大学学長）

東日本大震災（3・11）を、福島市において、桜の聖母学院中学・高等学校長として被災、その対応にあたった。昨年10月より、桜の聖母短期大学長に就任した。現在、本短期大学の授業に「福島学」の科目を設け、地域と連携し、学生と一緒に、東北と福島の復興のために貢献したいと考えている。